

# 2019年CSAワーキング・スタディ・ツアー アンケート

## 森 啓 記(連合・連帯活動局)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

・CSAの支援先であるラオス・タイを訪問することによって、連合「愛のカンパ」がCSAの活動を通じて有効に活用されていることを直接確認することができたこと。また、現地の方々との交流・意見交換によって、CSAの活動の意義が再認識できたこと。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・CSAや連合に対する感謝の気持ちを多く頂いたこと。  
・小学校の子供たちの輝く純粋な瞳や笑顔、高校生寮の生徒や卒業生の将来に向かって頑張っている姿。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・全ての訪問先で歓迎され、感謝の言葉が多く述べられたことから、CSAの活動を高く評価していると感じた。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・事務局の様々なご配慮のおかげで、各々の訪問先で貴重な経験と有意義な時間を過ごすことができ、内容の濃い充実した時間を過ごすことができた。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・CSAのこれまでの継続した活動が高く評価されており、物的支援だけでなく教育に関わる支援が総合的に行われていることが素晴らしいと感じた。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・現在の活動を継続して行っていくことを前提に、CSAの活動内容をより多くの人・組織に知ってもらえるようにすること。  
・現地の方々の自助につながる支援活動の検討。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・CSAの活動を、知ってもらい理解してもらえるようポスターやDVD等の情宣物やSNSの活用などを検討し、協力者・組織を増やしていくことが重要だと思う。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

・支援国の状況を的確に把握しつつ、現地での協力者を増やし、今後も継続していくべきと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか?

・CSAの活動を支えている各組織の様々な年代・職種の方々とご一緒できたことはとても有難く、取り組み方法や活動に対する思いなどの意見交換ができ、有意義であった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

・参加者が責任感を持って各々の役割を果たしていたことは、とても良かったと思う。  
・鈴木事務局長の事前準備などご配慮のおかげで、朝晩のミーティングによって、訪問前の心構えや訪問後の参加者の感想を共有できたことも良かった。

## 山本雅士(UAゼンセン・カイハラ労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・衣類のみの支援だと思っていたが、学校建設・補修や高校生寮支援など広がりのある活動の一部だと身をもって知れたこと

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・素直な子どもたちと学習に対する熱意

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・各訪問で宝という言葉が言われ深い感謝と期待を持っていると感じた

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・移動は大変だったが大歓迎に癒された

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・意味のあるもので、さらに自立へ向けて進んでもらいたい

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・現地の方が自分の力で活躍できるような技術の支援

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・今までの様に責任を与える形はよい

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・続けた方がよい

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか?

・周囲の方に助けて頂き勉強させてもらい良い縁にしたいと思う人達ばかりだった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

・事務局の方など準備を含め関わって頂いた方のおかげでスムーズだった。

## 伊津田 秀 美(UAゼンセン・オールサンデーユニオン)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- ・幣組が送った中古衣料をタイの衣類倉庫で発見出来た事。
- ・日本で実施している中古衣料カンパの活動が、必要とされている事であり、役に立っている事だと実感出来た事
- ・大使館や教育省で国の事情や教育事情について知る事が出来た事

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・行く先々で歓迎されたこと
- ・高校生や卒寮生が夢に向かって勉強し、頑張っている姿

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・行く先々で歓迎されたことがCSAの活動への感謝の表れだと思います。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・訪問先での滞在時間は丁度よいと思いますが、ビエンチャンに着くまでの羽田空港とバンコクの空港での自由時間が約2時間ずつあり、持て余した感がありました。
- ・現地のお土産が買えるナイトマーケットの時間をもう少しとって頂けるとありがたいです。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・単組で取り組んでいる中古衣料の活動しか知りませんでした。が、小学校や高校寮の寄贈をしている事などを知ったので、単組内でも情報発信をし、支援に繋がるようにしたいと思いました。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・支援を継続するとともに、タイやラオスの国内でその国の人たちが支援を受けなくてもよくなるような力をつけられるための支援も必要だと感じました。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・衣類倉庫で質問しましたが、中古衣料カンパの送付不可衣類のほとんどがCSA側の理由だったのでそういった事情も案内文かポスターに掲載すれば、困惑せずに送る衣類を選べるようになると思います。
- ・衣類が倉庫からどの村にどのくらい行き、そこから個人へどのように渡されるのかなどの詳細やその際の写真、また、タイの衣類倉庫で見た動画もCSAのホームページなどから閲覧できるようになるとよいと思う。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

- ・実際に現地へ行って目で見て感じる事は大きいと思うので、続けて頂きたい。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・同じ産別内でも他部門の方とも交流が出来ましたし、他の産別の方と知り合う機会がないので貴重な経験をさせて頂きました。

### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・役割分担があることで、協力し合って活動する事が出来たと思う。
- ・お土産は個人で持ってきたものは仕方ないかもしれませんがお土産用のスーツケースか何かを用意して一括管理してはどうでしょうか？
- ・交流班が一番不安なので、過去の交流班の事例などの情報をもっと頂いた上で何をするか決められるともっと色々な事が出来るのではないかと思います。

## 山崎 誠也(UAゼンセン・大阪ガス労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- ・組合員のみんなから集められた中古衣類が、タイ・ラオスで必要とされている人たちにちゃんと渡り、喜ばれていることを実感できたこと。
- ・日本とは違った生活習慣を学べたこと。
- ・いろんな単組の人と交流できたこと。
- ・ラオスで自由時間に散髪ができたこと。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ソムサバット村小学校の校長が言っていた、「乾季になると井戸の水が出なくなって大変困っている」という話が何とかできないかと思った。
- ・ラオス政府の人に、「観光だけではもう限界があり、雇用もあまりない。なにかいい案はないでしょうか？」と真剣に質問されたこと。
- ・町から離れていくほど道路の路面状況が強烈に悪化していくこと。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・ラオス政府の人や倉庫の担当者の口調や表情から、CSAの活動を必要としているんだなと感じた。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・スケジュールについては、なかなか読めないと思いますので、CSA事務局長とフンペンさん（通訳兼ガイド）との調整にお任せでよいのではないのでしょうか。
- ・訪問先については、中古衣類の引き渡し式に参加できてよかったと思っているが、本当に末端で個別に手渡すような場所を確認したいと思った。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・必要とされていることは今回のWSTで十分理解できたし、今後も続けていくべきであると思った。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・井戸を熱望する話があったように、学校などに訪問して、今何が一番必要とされているかを聞き、そこに支援金を投入するのがもっとも喜ばれるのではないかと。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・現地で必要とされており、素晴らしい活動であることをもっと知ってもらうために、参加できていない単組の人に参加してもらい、活動を知ってもらい、広めていってはどうか。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・もちろんです。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・たくさんありました。メンバーみなさん素敵な人たちでしたし、仕事の話、組合の話がたくさん聞けました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・経験のある事務局長の先導なしにはできないことだったと思うので、きっちり引っ張って頂いてありがとうございました。メンバー全員が役割を日替わりで担当することも気が引き締まり、良いことだったと思います。また、通訳のフンペンさんも日本人ガイドを25年もしていることもあり、気さくでよかった。

## 本 岡 諒 一(JAM・ものづくり産業労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・JAMが集めた中古衣類が、ラオス・タイ両国の衣類倉庫にちゃんと届けられ、災害などで必要としている人々の手に渡って使用してくれていることがわかったこと。  
・連合「愛のカンパ募金」の使われ方を始め、CSAの歴史ある活動と労働組合の助け合い運動が世界で役に立っていることがとても理解できたこと。  
・一週間活動を共にさせていただいた「連合本部」「基幹労連」「UAゼンセン」の方々との出会い、様々な対話をし互いの情報交換ができ人間として少しでも成長できたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・ラオスで訪れた「小学校2校」と「サンティパーブ高校生寮」での生徒との交流では、子供達の笑顔に癒され、教育実態や学校内の実状を把握できたこと。  
・ラオスとタイ両国の日本大使館への表敬訪問では、なかなか入れないようなところへ連れて行っていただき、日本との違いや労働実態などを学ぶことができたこと。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・何年間も活動を継続しているので、非常に有り難く思われているように思いました。  
・より高度な要望などもあり、今後の課題もまだまだ存在しているとも思った。  
・衣類の提供、金銭面での支援は継続して欲しいとは思ったが、自分達で何かしようと言うような動きも見え、両国とも国自体のレベルが上がってきているようにも思えた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・非常に密度の濃い日程だった。先方との面会時間の制限もあることから時間配分が困難であることはよく理解するが、全然余裕がなくタイト過ぎるように思えた。  
・両国の大使館訪問はとても良い経験になった。

## 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

### 1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・非常に良い活動であり、今後も継続しておこなった方が良いと感じました。
- ・中でも、高校生寮の支援については、そこで勉学に励む生徒達が本当に素直で真面目で、CSAから支援を受けていることを理解し、学んだ成果が発揮されて、卒業後就職している職業が「省庁・医者・先生・建設」などと、これからのラオスを引っ張っていくような存在になっているため支援は続けていくべきだと思った。

### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・今回のツアーで省庁へ訪問すると、役所の方から出てくる言葉の多くが「教育」だったため、教育に力を入れていくべきだと思います。
- ・広報活動に力を入れ、情報の発信をもっと行い、拡散していく活動も必要だと思う。

### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・まずは、ゴミを拾うなど、清掃活動も重要な活動だと思う。金銭だけではなく、自分達で体を動かして「きれいな町が気持ちいい」と言うことを感じて実践をしていくことを活動の中に取り入れるのも良いかと思う。

## 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

### 1) これからも続けた方がよいですか。

- ・良いと思います。
- ・CSAの歴史と諸先輩方が作ってこられた活動は継続するべきだと思います。
- ・支援を待っている人がいて、支援をおこなうことで助かっている人がいる以上、活動に大きな成果が出ていることがよく分かったので、無くして欲しくない。

### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・大いに収穫があった。
- ・互いの出身地を始め、産別の特色、単組の活動内容などを様々な意見交換をおこなうことで、情報や知識を増やすことができた。

### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・各人に役割の割当が事前に定められていたので、それぞれが役目を都度こなすことができたと思う。
- ・団長と副団長がチームメンバーに対し、きめの細かいフォローをしていただき、チームみんなで助け合いながら一週間活動をすることが出来た。

## 工 藤 健 弘(基幹労連・三菱重工グループ労働組合連合会)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- ・自労組も取り組んでいる支援活動の現地での受け取られ方が理解できたことがよかった。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・訪問先で出会った小学生や卒寮生のまっすぐな眼差しが印象的だった。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・一時的ではない継続的な支援を行う組織として非常に高く評価されていると思った。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・小学校・高校生寮や救援衣類を必要としているウドンタニの貧困者保護センターなど支援先の実態がよくわかる訪問先が多くあり非常に勉強になった。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・これまで継続してきた活動はラオスの未来の飛躍に向けた一助となる非常に有意義な活動であると思った。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・まずは現在の活動を継続すべきであると思う。将来的には「人」に対する支援もできるようなになればよいと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・CSA自体の広報活動に加え、ワーキング・スタディ・ツアーの参加者自体も折を見て自組織内での広報活動を展開していくことが必要だと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・より多くの支援を届けるために継続していただきたいと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・自組織の取り組み内容との違いなども勉強でき、非常に有意義であった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・日々役割が割り当てられることで、ただの参加者だけで終わることもなく、非常に良かったと思う。

## 堀田真吾(基幹労連・IHI労働組合連合会)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・実際に現地を訪問し、我々が送った中古衣類が現地の人達に喜ばれていることや学校建設・補修などにより、ラオスの発展に寄与していることが肌で感じられた。  
・ラオスやタイが抱える教育の問題等を理解できた。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・日本とラオスの小学校のギャップには非常に驚いたが、訪問した小学校での子供たちの純粋な笑顔と先生方の手厚い歓迎によるラオスの方のやさしさが強く印象に残った。また、サンティパープ高校の寮生・卒寮生の何事にも真面目に取り組んでいることと、将来ラオスを背負っていく人間に育っていることも強く印象に残った。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・訪問する先々の歓迎で、CSAの支援活動が非常に高い評価を受けていると感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・視察や公式訪問など多くのイベントが予定されており、ハードなスケジュールであったが、多くを確認することができた。ただ、トンナミ村小学校など、長時間かけて移動をしたにもかかわらず、滞在時間が短く、子供たちと交流があまりできなかったのが残念であった。省庁の公式訪問を減らしてでも、小学校の視察の日程を増やしてはどうだろうか。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・学校や寮の建設をはじめ、多くの支援事業が子供たちの未来に寄与しており、そのことがラオスという国自体の発展につながっているということを実感した。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・継続は力であるため、引き続き支援活動を継続すべきである。また、物資面だけでなく整理整頓や片付けなど、道徳や躾に関することについても教育支援ができればさらに良い活動になると思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・さらに広報活動の充実を図り、CSAの支援活動の実態を広く周知することが必要。我々のような支援団体が職場の組合員に周知をすることはもちろんだが、支援団体・支援者の枠を超えた取り組みも必要と考える。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・最近でこそラオスという国がテレビで紹介されるが、東南アジアのなかでも日本人にとっては遠い国であり、自分自身もワーキング・スタディー・ツアーに参加しなければ訪れることもなかったと思う。支援活動を続ける以上、継続すべきと考える。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・他産別の方と数日間にわたり行動を共にするのは初めてだったが、今回の交流で視野が広がり非常に有意義であった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・役割分担で、各自が責任感を持つことができ、非常に良かったと思う。